

No.27

明日への 扉

絵とデザインに
人の想いを乗せて

やまさき ^{かおる} 薫 さん



「シルクスクリーンの魅力は、買って来た物ではなく、使っている物にプリントできること」と話すやまさきさん。家にあるTシャツやバッグを持ち込んでプリントできるワークショップも行っている。 <http://yamasakikaoru.net>

昭和56年鹿屋市生まれ。鹿屋高校卒業後、東京学芸大学に進学。平成17年からフリーのデザイナー・イラストレーター・シルクスクリーン作家として活動。平成26年に東京都小金井市内に工房兼ショップ「ヤマコヤ」をオープン。同市で夫と2児の4人暮らし。(35歳)

小さい頃から絵を描いたり、ものをつくったりすることが好きで、高校時代も美術部に所属していました。雑誌を見ていて「この広告や雑誌の誌面は誰がつくるんだろう」と考えるようになり、デザインの分野が職業として多岐に渡って存在することに興味を持ち、この世界に足を踏み入れるきっかけとなりました。デザインを学ぶには東京がいいという恩師の言葉もあり、大学進学で上京。大学時代は教育学を学ぶ傍ら、入学当初からグラフィックデザイン研究室に入り、学内外で積極的に制作・発表しました。シルクスクリーンの技法もその頃から独学で学び始めました。シルクスクリーンは版画の技法ですが、インクの違い等で紙や布、革、ガラスにもプリントできます。パソコン上の作業よりも、手を動かしてつくる表現の奥深さ、汎用の幅広さにのめり込みました。卒業後はデザイン事務所に入社。仕事をしながらも個人での活動も積極的に続けていました。そんな中、勤めていた会社が経営悪化で解散。消費されるだけのものづくりのしくみの中では、長くこの仕事を続けていくことができないと実感し、独立してフリーでイラストとデザインの仕事をすることを決意しました。

独立後は企画段階からお客様と一緒に考えたり、絵とデザインをトータルで提案するなど、自分だからこぞできる表現方法を模索し続けました。現在、店舗用グラフィック制作では、ロゴや雰囲気表現するイラストを入れたパンフレット、シルクスクリーンプリントによる看板の制作、ワークショップでの場のにぎわいづくりと、トータルでお客様の想いのお手伝いができるように様々なアプローチで表現を探っています。デザインの表現分野は多岐に渡りますが、本質や目的を整理し、目的達成のために伝えたいことをより良い形で表現する、という根幹は一緒。そういう意味でもデザインの仕事は、人が新しく何かを始めることやその想いに深く関わることができ、一緒に形にしていけるところが、大きな魅力だと思います。今ではインターネット等のお陰で、場所にあまり縛られることなく仕事ができるようになりました。この良さを活かして、ご縁のある様々な人・物・場の架け橋となり、本当の価値や豊かさを、デザインの力で伝え継いでいきたいです。それは、私の好きな場所や守りたい原風景のある、鹿屋の魅力を伝えていくことでもあると思っています。

**FMかのや** (7・2MHz)
2月27日(月) 9時5分から
やまさき 薫さんが出演
(予定)